

山形県金峰少年自然の家・海浜自然の家における新型コロナ対応の目安(R4.5.13現在)

1 基本的な感染防止対策(すべての段階において徹底)

- マスク(不織布製が望ましい)を正しく着用
- こまめな手洗い・消毒・ゼロ密(1つの密でも避ける)
- 換気の励行
- 基本的な感染防止対策に努め、「うつさない」、「うつらない」行動を徹底

2 利用制限に係る段階

※=不可、▲=条件付きで可、○=可、・=留意事項、(共通)=金峰と海浜共通の対応

項目 レベル	日帰り	館内泊	テント泊	野外炊飯	所バス	金峰の活動	海浜の活動	
レベル3	<p>※各種(受入・主催・企画・自主)事業の停止 ○個人又は少人数の利用予定者に対する窓口対応や事前踏査、研修内容等に関する相談は可とする</p>							
レベル2	<p>◎県危機対策本部員会議における決定事項(政府へのまん延防止等重点措置適用要請)等によっては、臨時休館とする場合がある。また、個別に制限する場合がある。 ◎レベル2の場合、原則、県内在住の方のみの利用とする。</p>							
レベル2	<p>▲日帰り利用は時間を短縮するなど工夫した上で可 ▲可能な限りマスクを外した状態では行わず、グループワークや班活動等については、密集・密接する場面での感染防止対策に特に注意した上で可</p>	<p>○館内泊は可 ▲宿泊定員のおよそ半数にとどめ二段ベッドの宿泊室においては上下左右で連続せず、和室の宿泊室においてはおおむね1~2メートルの間隔を空ける ・室内の換気を適宜行う ・就寝時はマスクを外すことは可 ・密を避けて入浴する</p>	<p>○ビバーク泊は可 ▲テント泊は、1つのテントに1人の宿泊なら可。ただし、テント数に限りあり</p>	<p>○野外炊飯は全て可 ▲複数での調理を伴う活動を認めるが、平常時より少人数(4名まで)での班編成とし、作業分担等を工夫 ▲密集の回避が難しい場合には、個別熱源によるレトルト食品などの過熱や、個人での調理活動とする。 ・団体でスポンジ、ふきんを持参する ・使い捨ての皿や器を持参することを推奨する</p>	<p>▲学校・職場等で「普段一緒にいる人」で構成される団体は、定員での利用も可能とする。 上記以外の団体は、半数程度の利用にとどめる。 ・マスクを着用する ・会話を控える ・密を避けて着席する</p>	<p>▲食堂(共通) ・対面を避け、収容定員の半数程度とする。 ・飲食時以外は常にマスクを着用 ▲会議等(共通) ・可能な限りオンラインまたは書面での開催、回数の縮小などを検討する。</p>	<p>▲いかだ活動 ・定員は1艇につき6~10人 ・いかだを組む際はマスクを着用 ▲天体活動 ・天体ドームに一度に入れる人数は8人以下とする</p>	<p>▲カヌー活動 ・水上に出てカヌーに乗る場合はマスクを外す。</p>
レベル1以下			<p>○ビバーク泊は可 ▲テント泊は可 ただし、テントの定員の半数未満とし、身体的距離の確保が十分とれる人数での利用にとどめる。 ・就寝時はマスクを外すことを可とするが、マスクを外しての会話は行わない</p>					
<p>レベルに関わらず、上記以外の対応になることもありますので、ご了承ください。</p>								